

1年 身近な素材を 人とのかわりを通して 生活化していった実践例

石川県金沢市立田上小学校

きょうい あやこ
興井綾子

【実践の内容】

社会の一員として公共のマナーを守り安全に気をつけてバスを利用できることを目指した。そこで、体験的活動を取り入れ、人とかかわる場を設定し、幼小連携や評価の工夫を行ってきた。その結果、公共のマナーを意識してバスに乗れるようになり、年下とかかわり方も育つことが明らかになった。

【論文内容の紹介】

1 主題設定の理由

子どもにとって公共のバスを利用することは、自分自身の生活を広げ豊かにするために大切である。そして、自分以外の人のことを考えて行動することや公共のマナーを守ることは、今後国際化の進む社会においてさらに求められてくる。そこで、バスマナーを守ることの大切さに気づき、マナーを守って利用できる力と調べる力を培うために、本実践を行った。

2 研究の仮説

- ・一人一人の身近な「人・もの・こと」へのはたらきかけを促す。
- ・知的な気づきを大切にできる場を設ける。
- ・自分や友達の考えを聞いたり広めたりする場を設ける。
- ・活動をふり返り、次への活動への意欲を持つ場を設ける。

3 研究の方策と実践

(1) 人との出会い

全国緑化フェアへ行くという目的意識を持たせるために、マスコット人形の「ぷっぴ〜ちゃん」と出会わせた。「ぷっぴ〜ちゃん」

や運転士さんとの出会いによって、子どもは学習意欲を継続することができ、社会的マナーを日常化することができた。

(2) 場の活用

バスごっこ活動や作ったまちを歩く等の活動を行う際には、目的に応じた活動しやすい場所や広さの選択が大切であるとわかった。

(3) バスごっこ活動

この活動は、自分たちのバスマナーに対する問題点を見つけ、改善方法を考えるのに効果的であった。また、幼稚園児とのごっこ活動は、自分が学習してきたことを伝えることで、バスマナーの再認識ができた。

(4) まちづくり

ダンボールでの「まちづくり」は、子どもの心を癒し、意欲的に取り組む子どもの姿も見られた。できた「まち」を歩くことで、交通ルールの確認や、はやく「ぷっぴ〜ちゃん」に会いたいという意欲付けや、リーダーとしての自覚を持たせることにもつながっていった。

(5) 聞き取り調査

自分たちのバスマナーについて、町で聞き取り調査をした。自分たちのバスマナーの実態が分かり、公共のバスを利用する際のマナーの必要性に気づかせることができた。

(6) バスマナー実行委員会

実行委員を中心に、バスマナーの呼びかけ等を行い、全校に広めることができた。この単元の終了後も活動が続き、バスマナーを守ろうという子どもの意識を継続できた。

(7) ふり返りと評価

自己評価や保護者からのメッセージ、友達同士の相互評価を取り入れた結果、認められる嬉しさを味わったり、今まで気づかなかった自分や友達の成長を知ったりできる点で有効であった。

4 研究の成果と課題

人とかかわりから、公共のマナーを考えて乗れるようになり生活化していった。今後も場の活用を吟味し実践を積み重ねたい。